

荒川区が進める MACC プロジェクトは、荒川区独特の多彩な産業集積を活かし、区内企業の顔の見えるネットワークの形成を支援し、新たな荒川版産業クラスターの形成を目指しています。

MACC 通信では、MACC プロジェクトの「今」をお伝えしていきます！

## やがて花咲く新商品・8点がお披露目

# 高齢者ニーズ調査新商品発表会を開催！

## 産学連携の第2弾～NHKが放映

MACC プロジェクトが推進する荒川発新商品づくりの第2弾として、平成20年2月15日に『高齢者ニーズ調査新商品発表会』が西日暮里スタートアップオフィスで開催されました。地元企業と首都大学東京の産学連携を実現して、昨年夏、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）対策の新商品を発表したのに続いて、今回は高齢者を対象にした新商品8点がお披露目されました。荒川区の地域資源を活かして産業を活性化しようという取り組みは、いよいよ熱を帯びてきました。

今回の「高齢者ニーズ調査新商品発表会」は、前回同様に産学連携を基に新商品開発が進められ、地元企業がそれぞれの得意分野の技術を生かして、新しいアイデアの商品が8点発表されました。当初から MACC プロジェクトの主導的役割を果たしている首都大学東京健康福祉学部作業療法学科学科長の菊地恵美子教授は「地元企業と一緒にになった商品開発は、荒川区内に暮らしている高齢者の実態調査を基にしている。様々なアイデアやヒントの中から高齢者ニーズを捉え、健康・福祉につながる新商品を生み出したい」と高齢者の立場で商品づくりに臨むことを強調。また、荒川区の石原久産業経済部経営支援課長は「MACC プロジェクトの取り組みを広げ、その成果が地域産業の底上げになるよう支援策を講じる」と述べました。

### 調査報告

#### 「高齢者ニーズ調査の利用法」～高齢者像の理解と製品開発～

首都大学東京・健康福祉学部准教授 橋本美芽氏

荒川区と首都大学東京の健康福祉学部が平成18年度に共同で行った高齢者の実態調査の調査結果を分析して、改めて高齢者の現実の姿を捉え直し、そこから高齢者が何を求めているのか、ニーズはどこにあるのかを探り、製品開発のヒントを得るようにしたい。

高齢者とは65歳以上を指す。アンケート調査で回答を

頂いた4,375人の高齢者のうち、要介護の高齢者は265人。そのうち、35%が要介護1クラス、残り半数近くは軽度の要介護。4,110人は自立できる高齢者であるが、一般的な生活体力を維持している健康高齢者は67%、歩行筋力などの機能低下高齢者が26%、体力の弱い虚弱高齢者が7%である。

要介護高齢者には認知症の人も多く、虚弱高齢者と機能低下高齢者の中には「もの忘れ」症状の割合が高い。また、重心線の移動に着目してシミュレーションすると、体力低下の特徴により「体力維持」「歩行のみ低下」「歩行筋力の低下」「歩行バランスの低下」「体力低下」の5グループに分類される。

高齢者それぞれ健康状態・症状が違うので、どのクラスを対象にするかで、製品づくりのアプローチも違ってくる。他にも、世帯構成、住まい、部屋の種類、座り方などにより、行動パターンやニーズも異なるものとなる。



橋本准教授



熱心に聞く参加者の皆さん

これらのデータを、高齢者を理解するための基本的な情報として捉えたうえで、高齢者向け製品の企画・開発に取り組むことが望ましい。企画の際には、「対象の設定」「用途・使用場面の設定」が前提。そこにユーザーニーズがある。「市場性の検討」も欠かせない。開発に当たっては、定量的測定による性能の検証、「有効性の確認」が必要なので、モニターを選んで試作と評価を繰り返すことになる。動作分析、使用評価、モニターの主観的評価を確認したうえで、いよいよ製品製造に入るといった流れではないか。

### 新商品発表

#### 自立杖「フェレット」:(有)板垣製作所

手放しても倒れない新しいタイプの杖。杖を使いながら買い物袋は持ち難いので、手放しても「自立する杖」にした点が特徴。立ち姿が動物の「フェレット」に似ているところから商品名にした。アルミパイプ製なので軽い(620~650g)。地面に付く部分に車輪を取り付け、グリップ部分にピスを設けて、買い物袋が掛けられるように工夫されている。元気なお年寄りには杖を持って出掛けてほしいとの思いを込めて商品化した。価格は9,800円程度を予定。



フェレット NHKの取材を受ける板垣製作所の板垣社長

#### 高齢者に優しいスリッパ:(株)ストロング

「つまづきやすい」「すぐ脱げる」という課題を解決する高齢者用のスリッパ。「つまづき」を防ぐために、つま先部分を約30度上方に反らせた。「すぐ脱げる」をなくすため



スリッパ ストロングの平岩氏 取材を受ける日興エポナイトの遠藤氏

に、インソールに独自の凸凹を施した。そのうえで、インソール中心部分の突起が足裏を刺激して“心地よい”感触を出している。着脱の簡便性も維持して、立つスリッパを履く歩くことを促進するようにした。転倒への恐怖心を和らげて座りっぱなしを予防し、外出頻度向上に寄与することを狙っている。すでに特許申請中。

#### エポナイト杖「アステア」:(株)日興エポナイト製造所

天然ゴムが主原料のエポナイトでつくるおしゃれな杖。金属のチタン並の強度を持ち、ひやっとしない感触と手になじむ感覚が特色。「銀ブラにぴったりの杖」がセールスポイント。商品名は米国のミュージカルスターで有名なフレッド・アステアに因んで名付けた。高齢者の外出意欲を刺激し、歩く効能を高める用具として市場開拓を狙う。名前入り、メッセージ入りや彫刻加工など様々な装飾が可能。プレゼント用の特注品などオーダーメイドの注文を受ける体制。GPS機能も付加できる。標準価格は1本5万円を想定。

#### リラックス椅子:(株)堀澄

座っているだけで「心地よい」と感じられる木製椅子。介護用ではなく、高齢者にプレゼントする椅子という位置づけ。コンセプトは「座りたくなる椅子」「何かを始めたくなる椅子」「コミュニケーションが戻る椅子」。椅子自体は利用者の身体に合うサイズを取り揃え、クッションの硬さ、木の色、布地にバリエーションを持たせ、オプションとして収納力・機能性を兼ねたサイド家具を用意し、オーダーで製作する。座り心地、デザイン性を重視し、長持ちする家具として、これから具体的な商品づくりに入る。

#### 高齢者用洗える敷布団:花嫁わた(株)

家庭用の洗濯機で洗える衛生的で軽い敷布団。「軽い」「清潔」「簡便な交換」「室内臭のない」敷布団をいつでも洗えるようにして、その特徴をフルに発揮する。基本サイズは



リラックス椅子のデザインと堀澄の堀田社長



布団を見せる花嫁わたの吉村社長



巾着ストラップ 箱田織物工場の箱田氏



金澤製鞆の金澤社長と  
ショルダーバッグ、ナ  
ップザック、デイパッ  
ク型のカバン



装置を持つ志幸技研の吉川社長

100×210cm。3層構造で木綿製パット2枚の間に中材が入っている。全体重量は4.5kg。収納・手入れなどの手間が軽減できるのも特徴。上下のパット部分の素材を夏用・冬用として洗濯できる。今後さらに材質など研究開発を進めるとともに、「布団を洗う」習慣の啓発にも注力する。

### 巾着ストラップ：(有)箱田織物工場

高齢者が外出時に携帯する用具の一つとなる巾着ストラップ。自分のお気に入りのバッグや小物類にぶら下げてアクセサリ的に使用したり、買い物などで手荷物が増えた時にはカラビナフックにかけて使用したりできる。伝統的な織物で作製し、様々な色、柄が可能。大きさは手のひらサイズなので、普段ぶら下げて持ち運んで邪魔にならず、重量5kg位までの荷物が下げられる。今後はユニバーサルデザインを考えている。価格は1,000円前後の予定。

### 高齢者外出用袋物：金澤鞆製

高齢者の安全な外出に役立つ袋物(カバン)。ソフトで軽い素材を使い、夜間でも見える明るい色にして、片手で開閉できるカバン。杖を使う人はこのカバンに杖を止めておけるのが特徴。ショルダー型(縦18×横24cm)とリュック型(縦28×横24cm)があり、両方ともポーチが付いている。ショルダー型はストッパー付きリクレックスコードの縫い付け、本体マチにマジックテープ付ベルト、透明ポケットが付く、リュック型にはストッパー付きリクレックスコード、横出しファスナーが付いている。価格は未定。

### 独居高齢者見守り装置：志幸技研工業(株)

孤独死などの事故を防ぐための独居高齢者見守り装置。独居高齢者の日常の使用電力量を測定し、正常な生活電力から独居高齢者の生活パターンと使用電流をデータ化し、正常パターンから逸脱した電力を周囲に喚起する。本装置を住宅内の分電盤の空スペースに設置して、常時電流測定

を行い、正常でない場合は注意ランプを点灯する仕組み。今後、対象者の生活パターンをデータ化し、住宅内の使用機器と電力量の関係を実証実験するなど段階的に事業化を進めることにしている。

最後に講評として、首都大学東京産学公連携センターの室山丈夫産学公連携コーディネータは「大学側の調査やコンサルティング活動が奏功して、地元企業側から積極的な提案が相次いだ。企業側のスキルがアップし、消費者により近い商品開発が進んでいるように感じる。差別化を図って商品化を進め、高齢化社会に役立つ商品を数多く生み出してほしい」と述べ、また荒川区の豊泉光男コーディネータは「案件が増えるたびに課題ができるが、それが商品づくりのノウハウになり、人脈という財産が蓄積されていく。新商品は一人ではできない。メンバーシップを強めながら、個々の成果を積み重ねていきたい」と締め括りました。



菊池教授、室山コーディネータ、橋本准教授

この日の発表会の様子は、NHK総合の番組「こんにちは!と6けん」の特集コーナーで2月25日に放映され、番組を見た視聴者から問い合わせが続々寄せられるなど大きな反響を呼びました。この番組では「お年寄りが元気なまち・荒川」というタイトルで、荒川区と首都大学東京などが開発した「ころばん体操」を続けている荒川区のお年寄りが紹介されるとともに、高齢者向け商品開発に取り組むMACCプロジェクトの製品発表会の模様が解説を交えて映像になりました。

# 平成20年度のMACCプロジェクト事業計画

平成17年度から始まったMACCプロジェクトも、19年度をもって3年間の『立上期』が終わり、4月から新たに3年間の『成長期』に入ります。荒川区では、ロードマップに基づき計画的にプロジェクトを進捗させるため、20年度から新たな取組みを始めます。詳細については、決まり次第随時発表していきます。

MACCコーディネータを1名増員して2名体制とし、**戦略的な産学連携、企業間連携を一層推進します**  
意欲的な企業の取組みに対する、きめ細かく、充実した支援や、戦略的な産学連携、企業間連携のコーディネータが実現します。

**大企業・中堅企業と連携して新製品・新技術を開発する、先導的プロジェクトの第二弾を構築します**  
大企業・中堅企業と連携して新製品・新技術を開発する、先導的プロジェクトの第二弾を構築します。

**若手経営者・後継者の会を組織し、未来の荒川区を担う経営者の顔の見えるネットワークを構築します**  
荒川区の次世代を担う若手経営者・後継者が、ネットワークやセミナーを通じて、経営や技術に関するスキルアップを図ることができます。

**都立産業技術高等専門学校と連携して、教員による技術相談や高等専門学校の機器を活用した技術指導、出張技術指導を無料で実施します**

モノづくり企業が、モノづくり技術に関し高度な知識を有する高等専門学校の教員から、技術相談や技術指導を受けることにより、技術力の向上を図ることができます。また、区内の高等専門学校にある、高度な機械・装置・検査機器を気軽に利用することができます。

## MACCプロジェクト推進協議会の設置

地域内外の産業に関わる情報交流、連携、支援活動の結節点として機能する「ソフト・インフラ」として推進協議会を設置します。

## MACCコーディネータ TOMMYの部屋 VOL. 3

### 荒川珈琲物語

春ですねー！うらら・うららの桜満開。花のトンネル！もう味わいましたか？MACCも新年度を迎えて、新たに若手コーディネータ（谷口氏）が参加いたします。

今回は、荒川で見つけた美味しい珈琲店のお話です。

NEWなのにレトロな都電荒川線の車両は町屋駅前に到着。コンビニ・セブンの横の細い道を数分歩くと何やら山小屋風の建物が出現、ここが今回の主役「自家焙煎珈琲の店・カラピナ」です。ちなみに「カラピナ」とは、登山のフック器具のことを意味します。オーナーの山好きが伝わってくる。そう言えば、たまに“店主・登山の為、休業”とあるのでご注意のほどをお覚悟されたし。

山小屋のドアを開けると cowbell の快い音色とともに現れたロマングレーの店主、長井秀郎さん！「サラリーマンやってから、16年間コンピュータ計算センターを20人位の規模で、荒川でやってきました。でも、山と珈琲好きが高じて、昭和60年に「カラピナ」の開業に至りました。うちの売りは、珈琲の味と店内の雰囲気ですかね。」

なるほど、店内は、煙でくすんだログハウスの壁、時の流れを感じさせるランプ、こころの芯まで暖めてくれる薪ストーブとレトロな盛り立て役には事欠かない。

さていよいよ真打の登場、お薦め珈琲「苦味ブレンドB」は、マグカップになみなみのたっぷりサイズ、あと味さっぱ

りのうま・苦・マイルド、決して残す人はいないとの事も納得の一押しです。

珈琲は、もともとは農産物。植物学的に言えば、「アカネ科のコーヒーという植物の種子」です。その種を取り出し「精製（せいせい）」という工程で生豆（なまめ）にし、生豆を「焙煎（ばいせん）」という工程で加熱すると、良く見る褐色のコーヒー豆になります。美味さの秘密は僅か300g毎の自家製焙煎、そして、一日熟成、必ず1週間以内に使い切る。豆はコロンビア：キリマンジェロが1：1のブレンド。ドリップ法を感じさせないのは、焙煎豆の量が通常の2倍の25g使用していることからくる濃厚さであろう。

とにかく理屈抜きに美味い、珈琲好きにはたまらない一店と言える。人に教えたくないお店であるが、そこはそれ、MACC仲間、ぜひ一度「病みつき珈琲・苦味ブレンドB」を味わっていただきたい。

訪れた時は、「MACC会員です」とお忘れなく教えてください。きっと良いことがありますよ。

カラピナ

住所：荒川区町屋2-8-6

電話：03-3892-3335



MACC通信第4号は5月発行予定です。

お問い合わせ先 .....

荒川区産業経済部経営支援課

TEL：03-3803-2311 FAX：03-3803-2333

E-mail：macc@city.arakawa.tokyo.jp

MACCホームページアドレス

http://sangyo.city.arakawa.tokyo.jp/macc/